

No. 1187

秋、深し……

450

269

長い夏も過ぎ、都会にも本格的な秋がやってきました。人々は深まりゆく秋を読書など思い思いにすごしていました。

山梨県の笹子峠を越えるとそこはぶどうの里、“勝沼”静かなたたずまいを見せている。今収穫の秋を迎え、たわわに実ったぶどうの取り入れの真最中、毎年行われているぶどう祭、“勝沼や馬子もぶどうを食べながら”祭はぶどうに始まりワインに終る。美味しいワインも、もとはと言えばこのとおり。民族衣装を付けた可愛い未婚の娘さんが素足でぶどうを踏みつぶすこの方法がやっぱり一番美しいワインが出来るとか、もりもりぶどうを食べるのも格別。

祭の日はワインの呑み放題。何種類もあるワインを、味わいながら、ぐうっと呑む、この味ワカルカナ？

ワインの後は食欲の秋。アメリカからやってきたという本格的鉄板料理が食欲をそそる。まずはその料理の手さばきを拝見。その早さにしばし食べるのも忘れる。ここは奥飛驒の白川郷、合掌造りで知られるこの里の秋は早い。短かい山里の秋に親しむ人たちが訪れていた。

かって栄華を誇っていた平氏が戦いに敗れ、都を追われ、その落人がこの地に住みついたという、そんな話が旅の旅情を誘う高山の町は山の町である、町のつくりや人情が似ているから小京都とも云われる、そんな山の旅情に誘われて、人々がこの町に多く訪れる。

山の町の秋は高山祭が始まるころが最も美しい、季節である。祭の日には家々は竹すだれをかけチョウチンを出し精一杯のごちそうを作る。

威勢のいい鬨鶏楽、「ヘンベマムシ」を舞い狂う獅子雅楽の音について行われるカラクリ人形や神輿の渡御。それは目を見はるばかりのあでやかさである。

この祭が過ぎると冷めたい冬がそこまでやってくる。